

金沢マラソン沿道景観向上に関する提言書

平成26年1月

金沢マラソン沿道景観向上検討委員会

はじめに

2015（平成27）年11月15日（日）に開催される第1回「金沢マラソン」は、同年春の北陸新幹線の開通と相まって、歴史都市金沢が目指す国際交流イベントである。

本委員会ではこの記念すべき大会の成功を願って、マラソンコースの景観アセスメント（環境影響事前評価）を行い、提言をまとめさせて頂いた。先ずなによりも金沢らしい景観を愛でながら走る環境の保全について検討を重ねた。金沢を満喫できる好ましい視点場の選定や、不調和な景観の加除補填策についても討議をした。また各章には走者、応援する人、報道関係など全ての参加者に、健康でさわやかな統一感のあるイメージが伝わるよう項目を配した。マラソンの装備品やグッズに、加賀友禅の臙脂（えんじ）や金箔模様をあしらうことなども推薦したい。

マラソンは“走る人生”とも言われ、42,195キロメートルに凝縮する競いの姿に人々は魅了される。したがって舞台となる沿道景観は走者を鼓舞激励し、疲れを癒す心地よい一瞬を担保しなければならない。旧街道まちなみゾーンでは茶系、木色（もくじき）の家々と黒い葺を連ねた景観が、落ち着いて穏やかな心的効果を提供しよう。一方、鮮やか過ぎる色合いや、突然現れる視覚障害物は除去したい。委員会ではこのような事例についても金沢市景観条例に添って、偏らず、捉われず、拘らずに精査を行い章立てとした。また調査にあたっては全コースについて現地赶赴、さらにマルチビジョン映像で精査を行った。

都市や街の魅力が景観の良否によって問われるいま、これまで培われた金沢の歴史的伝統環境が、マラソンコースで脚光を浴びることに期待と誇りをもって答申といたします。

金沢マラソン沿道景観向上検討委員会
委員長 山 岸 政 雄



スタート地点の秋

目 次

序. 提言にあたって	1
(1) 金沢マラソン沿道景観向上検討委員会の役割と提言の位置づけ	
(2) 基本的配慮事項	
1. 景観的に好ましい箇所 の 視 点 場 設 定	2
(1) 眺望点の設定	
(2) 街路樹の見せ方	
(3) こまちなみ保存区域(天神町)	
2. 景観的に見せ方の工夫が必要な場所について	5
(1) 閑散とした所	
(2) 電柱・電線類	
(3) 都心軸(金沢駅～武蔵が辻～香林坊～片町)	
(4) トンネル	
3. 景観阻害要因への対応について	8
(1) 周辺環境に調和しない屋外広告物や建築物	
(2) 枯れた街路樹等	
4. マラソン運営設備の統一感の創出について	9
(1) デザインのトータルコーディネート	
(2) 横断幕・スポンサー広告等	

序. 提言にあたって

(1) 金沢マラソン沿道景観向上検討委員会の役割と提言の位置づけ

金沢マラソン沿道景観向上検討委員会は、平成27年度に開催される金沢マラソンにおいて、ランナーや観客、視聴者に対して金沢の良好な景観を発信するため、マラソンコースの沿道景観の向上に関する提言を行うことを目的に設置されたものである。

マラソンコースの沿道景観に対して、景観的な見せどころ（視点場）の設定と演出、見せ方の工夫が必要な場所への対応、景観阻害要因の抽出と対応、マラソン運営設備の統一感創出等のアプローチから提言を行う。

(2) 基本的配慮事項

(i) 対象者

金沢の良好な景観を発信する対象として、ランナー、観客、視聴者などが考えられ、対象者それぞれの目線でマラソンコースの良好な沿道景観を享受できるよう、きめ細かな対応が必要である。

(ii) 経過距離（時間）ごとの景観

スタート直後から前半、後半からゴール前など、経過距離（時間）によってランナーの密集度や心理状態が異なることから、これらをふまえた効果的な沿道景観向上策のあり方の検討が必要である。

(iii) ランナーを励ます工夫

効果的に観客や横断幕を配置することで、ランナーの走る気力を喚起し、その結果金沢の心象を高めるための工夫が必要である。

1. 景観的に好ましい箇所の視点場設定

コース内に景観的な見せどころ（視点場）を設定し、ランナー及び観客に金沢の良好な景観を発信する。また、メディアに対して適切な情報提供を行うことで視聴者もこれらの良好な景観を享受できるよう配慮する。

（1）眺望点の設定

浅野川大橋、犀川大橋、鼓門、北國銀行武蔵ヶ辻支店、白山連峰を望む場所を眺望点と設定し、ランナー、観客及び視聴者に対して良好な景観を感じてもらおうよう工夫する。

眺望点	配慮内容
浅野川大橋上流 犀川大橋上流	ランナーに橋の上流の景観を見せるため、橋の上では立ち止まらないよう応援の方に協力してもらい人垣を作らないようにする。
鼓門、北國銀行武蔵ヶ辻支店	鼓門では車両通行は残すが、鼓門周辺では人が立ち入らないようにし、ランナーからの視界を妨げないようにする。北國銀行武蔵ヶ辻支店についても、同様の措置をとる。
白山連峰や医王山の山並み	マラソン撮影業者に撮影ポイントとして示す。

写真－1 眺望点



犀川大橋



浅野川大橋



鼓門



北國銀行武蔵が辻支店



白山連峰を望む田園ゾーン

(2) 街路樹の見せ方

イチョウやケヤキなど紅葉が美しい街路樹がある区間を視点場とし、ランナー、観客及び視聴者に対して良好な景観を感じてもらおう。

場所	配慮内容
長坂周辺 木越団地周辺 50m道路	マラソン開催日に最も美しい樹勢となるよう、タイミングも含めて適切な剪定を行う。

写真-2 街路樹



山側幹線ゾーンのイチョウ並木



駅西新都心ゾーンのケヤキとイチョウ並木



木越団地のイチョウ並木

(3) こまちなみ保存区域（天神町）

金沢市こまちなみ保存条例に基づく天神町区域は、道路境界線付近で建物の壁面線が揃っており、道幅が5～6メートルと狭く鉤曲がりである特徴がある。しかし、空き地や駐車場もあり、現在のままではこまちなみ保存区域の特徴を感じにくい箇所も見受けられるため、ハード、ソフト両面からの工夫が必要である。

項目	配慮内容
ハード整備について	道路の路面や側溝を補修するなど、町並み全体でこまちなみだと思えるようなしつらえを施す。
ソフト施策について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車場や空き地が目立つ箇所では、プランターによる生け垣（H=1500 程度）や人垣で、狭い道の連続性を演出する。 ・ 沿道住民に紫の祭礼用玄関幕や提灯を灯してもらうよう協力を依頼することで、歓迎ムードや祭りムードを醸し出すことが可能である。

写真-3 こまちなみ保存区域



民家が連担する幅員の狭い道路

2. 景観的に見せ方の工夫が必要な場所について

コース内には、閑散としている所や電柱・電線、トンネルなど、見せ方の工夫が必要な箇所もある。これらについては、人垣やフラッグ、横断幕等の運営設備の活用など、最適な対応手法を選択し、ランナー、観客及び視聴者に対して良好な景観を感じてもらおうよう工夫する。

(1) 閑散とした所

コース後半は前半に比べると閑散としており、沿道景観の変化に乏しい。またランナーにとっても疲労が蓄積してくることを考慮した工夫が必要である。

場所	配慮事項
神谷内～福久周辺 磯部～北安江周辺 松村周辺	励ましゾーンを設定し、積極的に観客による人垣や飾花を行い、ランナーの目を楽しませる工夫が必要である。 ※1km程度を単位として見せどころを設定し、演出する方法を検討する。
示野周辺など	40キロ地点を越えてからは、残りの距離がわかるようなグラデーションのテープを貼るなどゴール直前でのランナーの走る気力を喚起するよう配慮する。

写真－4 閑散とした地区



22 キロ付近



40 キロ付近

(2) 電柱・電線類

現実的にマラソン開催までに、電柱・電線類の無電柱化などハード整備を実施することは難しいことから、ソフト対応を主体とする。

場所	配慮内容
尾張町付近 天神町付近	人垣やフラッグ及び生け垣によりランナーに好印象を与える工夫が必要である。

写真－5 電柱・電線類



歴史的景観ゾーン(2キロ付近)



旧街道まちなみゾーン(18キロ付近)

(3) 都心軸（金沢駅～武蔵が辻～香林坊～片町）

コース前半部分であり、ランナーに何かを意識させる必要はないが、バス停上屋が多くかつ目立つ存在であるため、景観的な配慮や、ランナーに対するメッセージを示すなどの工夫が必要である。

項目	配慮内容
バス停	<ul style="list-style-type: none"> ・ ガラスをきれいに拭く、剥げたペンキを補修するなど、適切なメンテナンスを行う。 ・ 当日のみの仮設対応として、きれいにデザインした幕を垂らすなどの方法も考えられる。 ・ 片町付近で横断幕を張る場合は、コース前半であり選手がまだ元気であることから、健闘を鼓舞するキャッチコピーなどにする。

写真－6 都心軸とバス停



武蔵が辻バス停



南町バス停



香林坊バス停

(4) トンネル

長いトンネルは、単調なコンクリートの壁面が続くため、入り口、内部、出口付近での場所に応じた見せ方の工夫が必要である。

場所	配慮内容
野田トンネル 崎浦涌波トンネル	<ul style="list-style-type: none"> ・ トンネルの入り口は白い幕などを設置して、暗い印象を和らげる。 ・ 内部は、トンネル出口までの距離を表示して安心感を与える。 ・ 出口付近では、応援や音で賑わいを創出し、出口への期待を高める工夫をする。

写真-7 トンネル



崎浦涌波トンネル(入口部)



野田トンネル(内部)

3. 景観阻害要因への対応について

マラソンコース沿道を精査し、沿道景観を阻害している要因を改善する必要がある。阻害要因としては、周辺環境に調和しない屋外広告物や建築物、枯れた街路樹等がある。改善方法としては、景観条例に基づく指導のほか、人垣やフラッグ、横断幕等の運営設備を活用することによってカバーできるものもあるため、恒久的な対応と暫定的な対応との適切な仕分けを行い、最適な対応手法を選択する必要がある。

(1) 周辺環境に調和しない屋外広告物や建築物

項目	配慮内容
周辺環境に調和しない屋外広告物や建築物	マラソン開催までに景観条例に則って指導を進める。また、開催までの期間の新設物件についても、条例に則った指導を徹底する。

(2) 枯れた街路樹等

11月は紅葉の時期であり、手入れが行き届いた美しい街路樹はランナーの気力を盛り上げる。このため、街路樹はメンテナンスを行いながら、植え替えの見極めや、剪定への配慮を行い、マラソン開催に向けてコンディションを整える必要がある。

場所	配慮内容
コース全体	枯れかかっているものや、良好に育っていないものは、植え替えも含めて適切に管理する。

写真－8 生育状況の悪い街路樹



山側幹線ゾーン(10キロ付近)



白山連峰を望む田園ゾーン(28キロ付近)



駅西新都心ゾーン(35キロ付近)

4. マラソン運営設備の統一感の創出について

デザインマニュアルを作成し、運営設備全体として統一感のあるデザインとなるよう配慮する。

(1) デザインのトータルコーディネート

金沢マラソンを印象づけるデザインコーディネートが重要である。コーンバー、アイコン、バナー、ゼッケン、スタンプ等の運営設備や備品、PRツールについても、全体デザインとの方向性を一致させる。

また、ロゴマークについては、金沢を象徴する色彩である金色や加賀友禅の五彩のひとつである臙脂(えんじ)を用い、金沢を全国に発信するに相応しい仕上がりとなっており、発信力のあるマラソンを媒体として金沢のまちのPRのために効果的に活用されることを期待する。

(2) 横断幕・スポンサー広告等

横断幕は、ランナーの心理状態に応じてメッセージや設置場所を設定する。また、高架構造物を活用することは景観阻害要因のカバーにもなる。掲出に際しては、ロゴマークを活用するなど、デザインの統一性にも配慮する。

スポンサー広告に関しては、放映や応援の観客が見ることを意識し、形や大きさを揃えるなど、統一感を持たせることが望ましい。

写真-9 横断幕の設置箇所案



中心市街地ゾーンの片町商店街(4キロ付近)



旧街道まちなみゾーンの高架(17キロ付近)



駅西新都心ゾーンの高架(36キロ付近)

金沢マラソン沿道景観向上検討委員会 委員名簿

委員長

山岸 政雄 金沢美術工芸大学名誉教授

委員

浅野 隆 金沢市屋外広告物審査会委員

小池田 菜美 マラソン経験者

小間井 隆幸 マラソン経験者

坂本 英之 金沢市景観審議会委員

鏑 隆弘 金沢市景観審議会委員

寺井 剛敏 金沢市屋外広告物審議会委員

会議における審議経過

第1回会議 平成25年8月7日（水）

- ・マラソンコース現地確認
- ・現地を踏まえての検討（景観向上要因、景観阻害要因など）

第2回会議 平成25年10月16日（木）

- ・視点場の検討
- ・景観阻害要因の検討
- ・マラソン運営設備等の検討

第3回会議 平成25年11月20日（水）

- ・提言書（案）の協議